



# 総合学術調査報告書発刊によせて

海陽町長 三 浦 茂 貴

この度、阿波学会による海陽町総合学術調査の成果がまとまり、その報告書が発刊される運びとなりましたことに、心からお慶び申し上げます。

さて、この海陽町は平成18年に「海南町」「穴喰町」「海部町」が合併をしてできた町で、学術調査は旧町時代、昭和36年度に海南地区、昭和48年度に穴喰地区、そして昭和61年度に海部地区で行われました。最も期間の開いた海南地区の調査からは約62年ぶりとなります。今回の調査では合併をしたことで過去の町単位では分らなかった地域の文化の繋がりが見え、今後の海陽町の新たな魅力発見のきっかけにもなるものと大いに期待をしております。

令和元年8月に阿波海南文化村で行われました結団式以降、全11班の調査団により多岐にわたる専門的な調査をしていただきましたが、令和2年の年明けより、新型コロナウイルス感染症の流行が始まり、往來の自粛や感染対策をしておいた調査など、いつもに増して難航したことは想像に難くありません。一時は実施が危ぶまれた中間発表会においても、入場者の制限や報告会の時間短縮など細やかな点まで感染症対策を講じて頂き、無事終了することができました。興味深い報告内容を拝聴することが叶ったのも、調査結果を町民の皆様へ還元したいという会員様の真摯な姿勢と実施に至るまでのご苦労があったことだと感謝の念に堪えません。

海陽町には、徳島県指定史跡第1号の「大里2号墳」や中国の内行花文鏡の破片が発掘された3世紀初頭の「寺山3号墳」、また地元以外の土器が82%も発掘された弥生時代の「芝遺跡」など歴史を物語る史跡の数々、そして日本書紀に登場する讃岐の国造鷲住王が祀られる「穴喰大山神社」や日本三祇園とも称され昔から庶民の崇敬が厚い「穴喰八坂神社」、天橋立の籠神社と密接な関係のある式内社の「和奈佐意富曾神社」や神功皇后の格式高い朱色の赫船が走る勇壮な「八幡神社祭」、清流海部川を舞台とした阿津姫伝説の残る式内論社の「阿津神社」、そして岩をも切ると称される「岩切海部刀」や四国最古の禅寺「城満寺」、阿波九城の一つである「覇城（海部城）跡」など、昔から船の文化が発達し、海部族が日本中を飛び回っていた頃のいにしえが、今も大切に守られ受け継がれています。

また、海陽町は徳島県で最も南に位置する温暖な気候で自然の宝庫でもあります。日本を代表する約4500万年前の水の流れがわかる地層「化石漣痕」、四国一の大滝「轟の滝」や四国最大の天然の湖「海老ヶ池」、雄大な景色の「松原海岸」や松島を彷彿とさせる絶景の「水床湾」、さらにはヤッコソウが自生する世界の北限地「妙見山」や天然記念物のオオウナギ生息地「母川」など、風光明媚な自然と希少な動植物が生息する豊かな自然も残っています。

今後、海陽町には鉄道と道路を走ることができる世界初の乗り物「DMV（デュアル・モード・ビークル）」が導入され、「世界初が走る町。」として、大勢の来町者が期待されます。これをきっかけに、今回の総合的な学術調査の成果をより多くの方にPRしていければと思っております。

結びにあたり、今回の総合学術調査の関係者や、ご協力をいただきました町民の皆様方に心からお礼を申し上げますとともに、阿波学会の今後益々のご発展と、会員各位の一層のご活躍とご健勝を祈念いたしまして、発刊のお祝いならびにお礼の言葉とさせていただきます。